《山下理事長　ご挨拶「夢」続き》

新年を迎えて更なる飛躍のために施設の改修を行う予定です。当センターに手術室は6室ありますが、満杯で新たな手術患者を受け入れづらい環境にあり、緊急手術症例も手術室が使用中で、他病院へ搬送せざるを得ないこともあります。2024年4月には時間外労働の上限規制などが適用される「医師の働き方改革」が法律で義務化され、医師の超過勤務時間を減らす対策も打つ必要があります。対策の一つとしてダヴィンチを使ったロボット手術を導入し、ハイブリッド手術が可能な手術室の増設を含めた改装を計画中で、2024年春の稼働を目指しています。当センターは先進的な医療を導入し、医師などの医療スタッフを更に充実させ、泉州地域住民の皆様の生命を守る最後の砦としての役割を担っていきます。今後も皆様方のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。

～捨て猫、捨て犬のいない世界へ～

RINKU SMILEで「りんくう生まれの新しい命」と題して、当センター地下2階駐車場で見つけた生まれたての子猫5匹の話を以前に書かせて頂きました。現在は大きくなって、引き取って頂いた2家族で大変可愛がられており、時々その大きくなった姿をメールで拝見し、妻と微笑んでいます。我が家には現在猫7匹（全て捨て猫）（一時は猫9匹＋犬1匹）がおり、それぞれ性格は全く異なります。猫は人間よりもそれぞれの個性があって、猫なりのマイペース感があって、見ていると本当に面白いです。我が家では猫のお世話は人間よりも最優先されます。先日も捨て猫、捨て犬の保護のボランティア活動をされている団体から連絡があり、捨て猫の子猫を引き取られた方から、その子猫が致死性の猫伝染性腹膜炎（FIP）に感染して、腹水がたまって死にかけているという話を聞き、高価な新規治療薬を取り扱っている動物病院で治療するためのクラウドファンディングに参加しました。目標額達成までにはドキドキしながら見守っていましたが、幸いに目標額に到達し、治療も成功し、その子猫チャンが元気になって飼い主の膝の上でくつろいでいる姿を見て本当に喜ばしい限りです。しかし、この1匹の子猫も元はと言えば、人間に捨てられた親猫が産んだ子供です。夏冬の暑さ・寒さや飢餓は捨てられた動物たちにとっては非常に厳しいものです。世の中から捨て猫、捨て犬がいなくなって、殺処分されるという悲劇を一刻も早くなくしたいというのが、我が家の夢であり、何とか早く実現したいものです。

ご挨拶「夢」

病院長
（兼）副理事長・
患者サポートセンター長
松岡 哲也

「謹んで新春のお慶びを申し上げます」

旧年中は、当センターの運営に多大なるご支援を頂戴し、心より感謝申し上げます。

昨年もコロナに明けコロナに暮れた一年となりました。新型コロナウイルスは変異を繰り返すとともに、感染力が強まり陽性患者は増加しましたが、毒性は弱まり新型コロナ肺炎が重篤化する患者は減少しました。感染力の増加により、どこに陽性者が潜んでいるか分からない状況で、医療スタッフの陽性者も多く、複数の病棟でクラスターが発生し病棟閉鎖を余儀なくされました。患者様や近隣医療機関の方々に多大なご迷惑をお掛けしましたことを、心からお詫び致します。

明るい話題に乏しい一年でしたが、その中にあっての明るい話題は、サッカーワールドカップにおいて日本代表が優勝経験のあるドイツとスペインを撃破して決勝トーナメントに進んだことです。優勝候補に果敢にハイプレスをかけた日本チームの健闘を称えたいと思います。惜しむらくは、クロアチア戦にPK戦で敗退してベスト8に進出できなかったことです。ゴールキーパーによるPKの阻止率は低めのコースで高く、高めのコースでは極めて低いとされています。高めを狙うと目線が上がるためにクロスバーの上に外れる確率が増加し、高めを狙うのは勇気がいるようですが、思い切って違うコースを狙って欲しかった。

我々は、今年も数々の難題に勇気をもって果敢に挑む所存ですので、引き続きご支援のほどを宜しくお願い致します。

私のこれから目指すところは、りんくう総合医療センターを一層、地域に信頼される基幹病院にすることです。老後は、私の出身地である山口県の角島で沈み行く夕陽を眺めて、しまいの時を迎えられれば最高です。

▲表紙の写真は角島大橋と角島

ご挨拶「夢」

副病院長・理事
臨床研修センター長
（兼）血液内科主任部長・
薬剤部門長
薬剤管理センター長
烏野 隆博

「新年明けましておめでとうございます」

昨年は、性格を刻々変化させる新型コロナウイルスの対応にかなり振り回された一年でありました。しかし、りんくう総合医療センターでは、その変化に対して迅速に対策を講じ、さらにはワクチン接種の励行など、地域の先生方と協働で対応することで多くの局面に対峙してきました。また患者様および御家族の方々におきましても、診療に際して不自由をおかけしながらも御協力をいただきました。ここに地域の皆さまに対し深く感謝申し上げます。

このように長く続く新型コロナウイルス感染ですが、中国ではゼロコロナ政策が暗礁に乗り上げていく中で、日本においては新型コロナウイルスとの3年間の共存を経て、柔軟に対応し緩和政策が取られるようになってきています。医学界においても学会の様相が変わってきています。一昨年まではほぼすべてがWEB開催でしたが、昨年はハイブリッド開催や現地開催とした学会も見受けられるようになってきました。感染予防に十分配慮すれば従来通りの学会開催が可能であることが検証されてきているのではないかと思います。学会における発表に際しての緊張感や他の先生方からの多くの質疑に対する返答など、現地開催でないとできない経験であり、特に研修医にとってはこれらの経験が自信につながる大きな財産になると考えられます。今年は、これからの医学を牽引していく若い先生方がさらに多くの経験ができるような実りのある一年となることを祈念いたします。

夢という言葉からは、夢の国であるディズニーランドが連想されます。新型コロナウイルス感染が流行するまでは家族と何度も夢を体感するために訪れました。生みの親であるウォルト・ディズニーには夢に関する多くの名言があります。夢見ることができれば、それは実現できる。夢をかなえる秘訣は、4つの「C」に集約される。それは「Curiosity-好奇心」、「Confidence-自信」、「Courage-勇気」、「Constancy-継続」である。次、行ける日を夢見て、これからも多くのことに取り組んでいきたいと思います。